

第 37 号

発行 世田谷区町会総連合会
世田谷区若林 4-31-9
ポライト第2ビル202
☎・FAX 5481-3456

発行人 会長 後藤 正 三
編集 情報誌編集委員会
編集委員長 堀池 有

せたがや 町総連だより

世田谷ナンバーをきっかけとした 魅力あるまちづくりに向けて

世田谷区長 保坂 展 人



左端が後藤会長です。

自動車のナンバープレートにご当地ナンバーという制度があるのをご存知でしょうか。現在、「富士山」「伊豆」「仙台」「堺」などのご当地ナンバーがあります。第二弾の導入を予定しています。通常、ナンバープレートは、自動車検査登録事務所の名称（世田谷区の場合は品川）が表示されますが、平成十八年に、地域振興や観光振興の観点からご当地ナンバーが導入されました。

導入した地域を対象にした国のアンケート調査では、地域住民の一体感や地元への愛着が高まったなど、概ね、一定の効果があったそうです。このようなご当地ナンバーを世田谷区でも実現して欲しいと、昨年十一月に、区内の産業団体の皆さんからご提案をいただきました。その後、「世田谷ナンバーを実現する会」も設立され、区内の産業団体や事業者をはじめ、世田谷区や世田谷区町会総連合会が加入し、加入団体数は五〇を超え、世田谷区全体の取り組みに発展しています。

実現する会では、世田谷のポロ市やせたがや梅まつりなどの区内イベントでPRや署名活動を行っておりますが、六月七日現在で約二万八千もの署名が集まっており、区民の方からは、「世田谷ナンバーがなかったのが不思議」「実現に向けて頑張ってほしい」などのご意見をいただいていると聞いております。

三月二十六日には、成城ホールにて、決起大会が開催され、会場は四〇〇人近い方で満員となり、大変な熱気に包まれました。四月に区で実施したアンケート調査では、約八割の方から「導入賛成」との回答をいただいております。

また、世田谷区民としての意識が高まることによって運転マナーの向上や、地域活動への関心が高まるなど様々な面での波及効果に期待は膨らみます。みんなで世田谷ナンバーを実現させ、魅力あるまちづくりに繋げていきたいと思います。

目 次

| | |
|----------------------------------|---|
| 世田谷ナンバーをきっかけとした 魅力あるまちづくりに向けて | 1 |
| 地域情報 | |
| 玉川地域 | 最近の中和会の活動から |
| 砧地域 | 「いつかくる災害から身を守るために」 祖師谷第二自治会防災活動について |
| 烏山地域 | 顔見知りのまちを目指して |
| 世田谷地域 | 町会活動のベースである三つの目標 (防犯・防災・美しい町)をめざし 会員との絆を深める |

| | | |
|------|--------------------------|---|
| 北沢地域 | 赤堤発災対応型防災訓練を 実施し考えたこと | 6 |
| 編集後記 | | 8 |

世田谷区町会総連合会のホームページ

世田谷区町会 検索

※QRコード



バーコードの一種で、携帯電話で撮影して、簡単にホームページを見ることができます。

玉川地域

地域情報

最近の中和会の活動から

奥沢中和会 会長 鶴原典子

昨年の七月二十八日、臨時総会で、奥沢中和会会長に就任した鶴原です。急な交替で何も分らない中を、まちづくりセンターや周りの町会の皆さんに教わりながら、新しい役員とともに夢中で働きつづけて約一年が過ぎようとしています。

奥沢は長い間、目黒区自由が丘と大田区田園調布という名高い二つの町の間に挟まれた、ひっそりと静かな住宅地でした。しかし最近奥沢駅を通る三田線と南北線のおかげで飛躍的に便利になり、駅の周りには若い人向きのマンションが目みえて増えていきます。その奥沢の四、五丁目が中和会の範囲です。そしてそのほぼ真ん中に中和会の会館があります。

この春、三月二十六日には、沢山の会員の協力によ

り、世田谷区から法人化の認可を受けました。次の仕事は、四十七年前に建てられ、老朽化して耐震度が低いと指摘を受けた会館を建て替えることです。五月二日には若くて実績の有る設計者と契約を交わしました。面接では会員の意見をよく聞いて、この土地になじむ会館を建てると

約束してくれました。広場も公園もない四丁目、五丁目にとって、会館は狭くても、大切な中央広場とも言える場所になるでしょう。

私たちは、既に今年三月初めから一般会員も交えて建設委員会を毎週のように開催して話し合いを重ねてきました。希望や夢は限りないけれど、町会の会議や会合だけでなく、一階は出来るだけバリアフリー、広めのトイレもつけて、車椅子の方々にも楽に使える部屋、二階は幼い子連れの若い家族にも使い易く、と考えることを、会館建設の基本姿勢とすることになりました。

肝心の町会活動については、部屋いっぱい机を並べて、会議も回覧作りも行い、役員がそれぞれ地域を分担して回覧を配達し、そ



建て替え前の会館



会議の様子

の地域の問題の解決にも当たる、という現在のやり方は一つの理想の姿だと思われま

こんな忙しくては、長続きしないとの声も上がりますが、将来も長い期間建設資金を返済していくことを考えると、以前のように事務員を頼むことは当分出来そうにもありません。役員をもっと増やして一人ひとりの受け持ちを減らし、会員とのつながりを強く細やかにすることはこれからの大きな課題です。

昨年六月から事務所を閉じて会員皆で町会活動をするようになった私たちは、本当になれない事ばかり

で、走りながら考え、働きながら走っているという毎日を通じて来ました。設計図が決まったら、資金計画のやり繰りも本格化します。自主的にやっている古紙古布の回収報奨金も重要な資金源になります。また十二月には、地質調査のため、早くも会館を壊すので、その先、何処でどうやって活動を続けようかということも差し迫った課題です。

奥沢は町全体として、もともと穏やかな暮らしよいところなので、町会に入るとそれ以上、どんないいことがあるの、と聞かれることもあります。具体的に目に見えるようなメリットはこれから皆で作っていきましよう、という気持ちです。

世田谷区の中でも際立って高齢化率の高いここでは、個人宅を利用した高齢者のサロン活動も盛んです。また隣の地区会館を借りてのいきいきサロンも十二月から新たに始まりました。

これからは、若い住民の皆さんにも町会に目を向けたいと思います。ま

砧地域

ず、新たに誕生した赤ちゃんを、町中でお祝いすることにして、十月にささやかな「赤ちゃんお祝い金」制度を作りました。情報が入ったら、民生委員と担当

役員が「こんにちは、赤ちゃん」とお訪ねするのです。二十四年度は五人の赤ちゃんのお祝いをしました。隣近所、仲良く挨拶の交し合える町は犯罪にも災害

にも強いと言われています。役員の私たち自身も、町の中を歩きながら、一人でも多くの方々と声を掛け合い、言葉を交わすことで、ふれあいの輪を町中に

広げられたらと努力を続けていきます。これからも、温かいまちづくりを先進的に進めていこうとする先輩町会に沢

山のことを学ばせていただき、一層安心で、暮らしやすいまちづくりを進めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

「いつかくる災害から身を守るために」 祖師谷第二自治会防災活動について

祖師谷第二自治会 会長 鈴木俊之

東日本大震災の余震が続くなか、淡路島を震源とする地震、富士山や河口湖等日本各地で災害・異常が発生し、我々が生活している関東圏でも直下型の地震・災害の発生が懸念されています。

わが自治会でも「明るく、安心・安全な、楽しく住みよい街づくり」を目標に掲げ、①地震発生直後の実践的防災訓練②地域病院とタイアップした消火訓練③備蓄食料および器材の充実④避難所の設置・運営訓練⑤救命講習⑥自治会主催による防災講習会等の防災訓練を実施して防災活動に努めてまいりました。

①地震発生直後の実践的防災訓練は、祖師谷第6自治会・成城消防署・成城警察署・幸野メデイカルクリニック・世田谷区の協力のもと多数の地域住民の参加による

ものは、食糧だけでなく水の補給や排便・排尿の処理が重要であるとの認識により、食糧備蓄のほか飲料水の備蓄・搬送用

④避難所運営組織訓練の実行委員として積極的に参加し、訓練日には、会員も多数参加いたしました。⑤まちづくりセンターでの

救命講習の他、自治会主催の講習会を消防署の援助のもと実施いたしました。⑥防災アドバイザー（防災士）を講師として自治会会員だけでなく地域住民に広く参加を募ったところ多数の方が参加いたしました。



救命講習



消防団による一斉放水



スタンドパイプによる放水

②幸野メデイカルクリニックと合同で、消防署・世田谷区の協力のもと担架搬送、スタンドパイプ他を使用した放水訓練等を行いました。③災害時に必要となる

烏山地域

顔見知りのまちを目指して

千駄山町会 副会長 町田 秀雄

現在の懸案事項として、平日昼間の災害発生時に東日本大震災のような混乱や交通機関の麻痺等で就労者が防災活動に参加が困難となり老人・子ども・要援護者・独居者に対して避難・救護・介助等に人手不足で十分な対応ができないこと

です。この状況を解消するため「自治会防災体制」を確立、充実するとともに「防災体制マニュアル」の制定を継続して災害時に役立つものに致します。「防災体制」とは自治会地域を数ブロックに分け

て、各ブロックにブロック長を設け、ブロック内の被害状況を把握し、住民の安否確認・初期消火・避難・救護・介助・誘導活動を行うとともに「防災本部」に情報の提供を行い（必要があれば人員の派遣を依頼）、また備蓄食料及び器材など

の救援物資の「配布基準」に基づき配布を行います。一方「防災本部」は自治会役員他で構成され備蓄倉庫の安全確保並びにブロックからの情報を収集・整理し、被害状況の全容を把握し、区防災本部拠点隊、医療機関、公的機関等の外部組織

との連絡を行い、各ブロックへの救援物資の配分・援助活動等を行います。今後も災害発生時における自治会会員・地域住民の自助・共助の実施を目的に日頃の心構えと準備・活動のより一層の意識向上を図ってまいります。

千駄山町会は、北烏山一丁目にある約五〇〇世帯の小規模な町会です。東に区立武蔵丘小学校、西は烏山北住宅に接し、烏山下宿の一角に昭和二十年代に誕生した町会で、現甲斐会長が三代目の会長となります。烏山の地名は、鎌倉時代後期の書物に「武州烏山」の記述がみられ、烏山地区は、甲州街道に沿って、京都から江戸へ向かって、給田、烏山上宿、烏山中宿、烏山下宿の順となっております。

千駄山の地名は、元禄時代

「へそ」は区立烏山公園の中心の部分に、区立烏山公園があります。この公園には、昼間はお子さん連れのお母さんたちが集まり、午後は、放課後の小学生たち、夜は犬の散歩の途中で挨拶を交す人たちが

ど、地域の憩いの場となっております。砂場を毎日掃除してシートで覆って清潔を保つてくれている人。この公園のお話を書いている町内の童話作家。子どもから大人まで、この公園を愛して止みません。町会事業でも、この公園は大きな存在です。烏山地区防災訓練参加に出席する一時集合場所。夏休み一週間のラジオ体操会場。自衛隊消防訓練会場。そしてメインは、七月下旬の「千駄山ふれあい祭り」会場です。このふれあい祭りは、世



ふれあい祭り タラ太鼓の皆さん

田谷区の地域コミュニティ活性化支援事業の補助を受けて平成十七年から始まりました。町内の子どもからお年寄りまでみんなが知り合いになり、安心して住みやすいまちを、自分たちで創ろうと始めました。今年で九回目を迎えます。今年々隣接する町会自治会のご協力を得て、当日のご協力者は一四〇人を数えます。小学生以下の子どもたちが七十五歳以上の人が審査する大声コンテストで「おばあちゃん、ありがとう」などの声を。子どもたちだけで担ぐおみこし。焼きそばや射的、金魚すくいに輪投げなど手づくり模擬店

世田谷地域



ふれあい祭り 武蔵丘小の皆さん

わす人も増えて、学期ごとに行われる学校の「あいさつキャンペーン」には、年々町内の参加者が増加しております。

我がまちを守る

パトロール隊

平穏な話題ばかりでもありません。平成十二年ころ、連続して放火事件が起こり緊急の対策が必要となりました。早速、会長と呼びかけで、平成

十三年度から町内パトロールを実施しています。班ごとにアパートの空き部屋や留守が多い家、最近引っ越して来た家などまちの状況把握から始めました。夜に燃えやすいものを出さない、などのポスターやチラシを提示したり回覧をしました。一方、消防署や消防団にもパトロールを依頼し、町会の夜のパトロール隊のほかにも、犬の散歩のときは勿論、会社帰りの

お父さんにもサラリーマンパトロールをお願いするなど誰もが無理なくお互いにまちを見て回る運動を展開しました。この話がテレビ放送されたこともあって、放火や空き巣が激減し、まちが綺麗になり、何よりもお隣りご近所同士の信頼関係が深まったと言えます。その結果、町会加入率は、九十八パーセントに達しています。

今でも年末三日間の「火

の用心！」の夜警には、十人二班体制の参加者が集まってくれます。日頃烏山公園に集まってくる犬の散歩者に、町会で作成したワンワンパトロールの腕章を、所属町会に関係なく配ってまちのパトロールを実施しております。

町会活動のベースである三つの目標
(防犯・防災・美しい町)をめざし、
会員との絆を深める

三宿北町会 副会長(防災担当) 石塚 徳重

三宿北町会は世田谷区の東のはずれに位置し、目黒川に繋がる北沢川と烏山川の緑道に挟まれた緑豊かな住宅地です。

三宿の町名は諸説ありますが、水の宿る所から水宿となり三宿になったと言われています。

昭和七年の市郡合併により世田谷区三宿となり三宿町会が発足し、その後三宿が南北に二分され、北に位置する町会として三宿北町会(現在の区割り三宿二丁目)が誕生しました。

現在は約二二〇〇世帯、約三八〇〇名の人口を抱

え、都心に近い立地条件と交通の便が良いこともあり、マンションや一戸建てが建てられて若い世代が急速に増えています。

現在の町会活動は本部役員と三十五ブロックに分けられた地区役員で運営され、会員の要望に沿って「安

全・安心・美しい町づくり」を目標に会員との絆を深める努力をしています。



防犯パトロール

●防犯活動について：

安全な町づくり

毎月上旬に夜八時から東西二班に分かれ町内パトロールをし、中旬には違法広告撤去活動と同時に防犯パトロール、違法自転車チェックなどを実施しています。下旬には多聞小学校PTAの父母と共に児童通学路の安全確保のパトロールを行っています。ハンドマイクを使用して近隣住民に安全確保の協力を呼びかけています。



救命法講習

●防災活動について：
安心な町づくり

平成二十年までは八月の第四土曜日に、もよりの避難所である多聞小学校（PTA・学校協議会）と池尻四丁目町会、三宿北町会三者の合同防災訓練を実施してきました。しかし近年、残暑の厳しい中での固定化した訓練内容や参加者の

高齢化により、熱中症など健康が危惧され、平成二十一年度より新しい訓練を試みました。
新しく居住してきた若いファミリーに防災意識を持つて貰うような訓練が必要との考えで、授業参観日に合わせて防災訓練を設定し、保護者の参加や防災意識向上に努めました。町会の防災訓練に参加した住民に授業参観の父母が合流し、児童と一緒に消防署、消防団の模範訓練を見学し、PTAのお母さんや親父の会のメンバーを中心に四〇〇名分のカレーライスを炊き出し、有意義な交流ができました。

しかし当初は救命法や地震体験訓練を通じ保護者と交流ができ、防災活動に関心を持ってもらうという成

●美化清掃活動について：
きれいな町づくり

果がありました。回数を重ねるに従ってマンネリ化し、参加者も減ってきました。今年度は、従来の防災活動から幅広い住民が参加できるような避難所運営訓練に変更する方向で検討しています。



美化清掃活動

きれいな町には犯罪が少ないと言われています。清掃活動は町会員の絆を深めるのに一番適している活動の一つです。
二つの緑道は買い物・通勤・通学路であり、朝夕は犬の散歩やウォーキングなど近隣住民の憩いの場所にもなっています。
毎月第一と第三日曜日に二班に分かれ両方の緑道周辺の清掃活動を実施しています。月中の違法広告除去活動や月末の児童通学路安全パトロールの際にもごみ袋を持参し町中の清掃活動を実施しています。

清掃活動を息長く継続することにより、ごみが大変少なくなりきれいな町になつていきます。

●これからの課題：
幅広い年代層が参画できる町会活動をめざして

世田谷区の中でも共通の問題と思いますが、三宿地区も新旧住民の入れ替わりが急速に進んでいます。旧住民の高齢化が進む一方で若い住民が増加し、町会に対する期待度も変わって来ると思っています。防犯・防災・きれいな町づくりは年代を問わず共通の目標ですが、これ以外の新しいニーズに対応する必要があります。これを実行するためには若い会員の参画が必須です。住民の絆を深めるために、いかに若い力を取り込むか：これが今後の最大の課題と思えます。
この課題は三宿北町会単独で解決できません。世田谷区と近隣町会・自治会と一体となつて解決しなければならぬと思えます。

北沢地域
赤堤発災対応型防災訓練を

実施し考えたこと

赤堤二丁目町会 防犯防災部 橋間孝子

昨年のはじめ、町会役員会に元世田谷消防団第十一分団長で現世田谷消防団の副団長である岩田氏から「今年の防災訓練は例年の

ような見学型、体験型の防災訓練ではなく発災した時に「臨機応変に対応」という意味のある発災対応型防災訓練をしようと考えてい

ます。赤堤一丁目から五丁目の合同訓練です。町会別に災害が起こるわけではありませんから、名称を赤堤地区発災対応型防災訓練とします。理想的な訓練としては何の前ぶれもなく訓練をはじめ通行人も巻き込んで行う様な訓練です。」との説明がありました。初めに耳にする訓練名称です。そして、何となく町会の年中行事化している防災訓練への強烈なパンチです。

実施日は十一月十八日(月)と決定しました。この間に隔月で連絡会議がもたれることになりました。

参加者は各町会から二名と世田谷消防署、世田谷消防団第十一分団の団員、北沢総合支所地域振興課防災担当者です。名称は第三回の連絡会議で「地区」の文言がはずれ「赤堤発災対応型防災訓練」と変更になりました。

会議では平成二十二年度桜ヶ丘地区で行なわれた発災対応型防災訓練のDVDを見て学習し、どのようにしたら町会役員に訓練を理解してもらえるかを話し合いました。百聞は一見にしか

ず：と言いますから、私は自分の赤堤二丁目町会役員の方々にDVDを見てもらうことにしました。

世田谷消防署上北沢出張所からDVDを借用し役員会で見てもらい訓練のイメージを膨らませてもらいました。ひとつひとつの訓練は難しいものではありませんが、災害発生時に冷静沈着に行動ができるか、という事です。

連絡会議では他町会の方々と顔見知りになり実際の災害対応時には心強いと感じました。実施の一ヶ月前の会議で当日は世田谷消防団第十一分団、あんしんすこやかセンターのスタッフの方々、学生消防団員も加わるようになりました。

連絡会議でどこかの町会の方が「はじめての赤堤発災対応型防災訓練だから、完全にやろうとせず頑張らず、コツコツやりましょう」と言って下さり肩の荷が少しおりました。

十一月十八日の訓練当日は晴れでした。赤堤二丁目町会は午前十時地震発生と同時に六所橋区民集会所前に町会本部を立ち上げ



ました。町会長が部長となり、防災部が次々と集まってくる役員、町会の方々に指示を出し消火活動を街路消火器での初期消火、次にスタンドパイプで完全消火、高齢者の見廻り、歩行不可能な高齢者やケガ人を本部まで車椅子で移動させる訓練を行いました。

赤松公園に立ちあげられた全町会の情報を収集している所に当町会の刻々と変化する情報を伝えました。災害時に情報を一ヶ所で収集しまとめる大切さを痛感しました。この後、訓練参加者全員で赤松公園に移動し見取訓練に参加しました。この訓練ではじめてD級



可搬ポンプにお目にかかりました。水源が近くにある場合は威力のあるポンプと分かりました。訓練は理屈ではなく全身で覚えるものと再認識しました。

十二月の連絡会議の反省会では当町会は無線機を持っていないので携帯電話を使用していたことを指摘されました。災害時に携帯電話は通じなくなるので今後連絡方法を考えなくてはなりません。はじめての発災対応型防災訓練であつたために会議を重ね用意をしましたが、災害発生時には臨機応変に対応できるように今後も訓練を重ねていかなくてはと強く思いました。

発災対応型は共助にあたります。そのためには自助が大切です。自分の住居を見まわして下さい。大地震で転倒する家具はありませんか。寝室を見わたして下さい。落下する物がある下に寝ていませんか。転倒したら下敷きになる大きなタンスや本箱がありませんか。地震で破損しやすいガラスに飛散防止フィルムを貼ってありますか。自分自身がケガをしない、自宅から火を出さないように心掛けましょう。

昨年、区から各戸に配布された災害時区民行動マニュアル(マップ型)を家族で再度よく読んで下さい。災害時の大切な行動、情報収集方法が大変分かりやすく丁寧に記載されています。備えあれば憂いなしです。

町総連ニュース

◎烏山地域町会自治会連合会会長交替のお知らせ

平成25年6月10日現在

Table with 2 columns: 新会長 (杉田 武信), 前会長 (長島 清一)

◎会長交替のお知らせ

平成25年6月10日現在

Main table listing council members across various regions: 砥, 玉川, 北 沢, 世 田 谷, 地 域.

◎理事交替のお知らせ

平成25年6月10日現在

Table listing council members and their districts: 地 区, 新 理 事, 前 理 事.

◎常任理事交替のお知らせ

平成25年6月10日現在

Table listing permanent council members: 地 域, 新 常 任 理 事, 前 常 任 理 事.

◎町会総連合会情報誌編集委員会名簿

平成25年6月10日現在

Table listing the editorial committee members: 会 長, 委 員 長, 副 委 員 長, 委 員.

編集後記

前任の福原編集委員からバトンを引き継ぎ「せたがや町総連だより」の編集委員の大役をお引き受けすることになりました。過日、初めて編集会議に参加し、経験豊富な編集長以下編集委員の方々の真剣な姿に感動しました。

このような機会がない限り他地区の町会・自治会の会長の皆様とお話をする機会もないまま、祖師谷地区で自己満足を感じているだけの日々を過ごして行く事になっていったと思います。お話を伺って感じたのは人口九十万人以上ならんとする世田谷区の大ささでした。そしてそのような広い地域で日々安全・安心な、住みやすい街づくりにご苦労されておられる姿を直接拝見できたのは大きな収穫でした。

この情報誌「せたがや町総連だより」が、夫々の地域を支えておられる町会・自治会の皆様の目に止まる情報誌になるよう微力を尽くしたいと思えます。

編集委員 吉岡 靖之